令和7年度 臨時号

祥豊だより

TEL 075-691-2486

ひとりひとりの児童が活躍する学校づくり
～ 学校・保護者・地域が児童を認める・心つながる学校を目指して ～
「心」も「環境」も 京都“1”美しい学校

令和7年10月27日
京都市立祥豊小学校
校 長 森口 光輔

積極的に配信中♪

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月17日（木）に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりましたのでお知らせします。本調査は、国語科・算数科・理科の3教科と同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。国語科・算数科・理科の結果概要と児童質問紙調査の結果から生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語科より

国語科における全体の平均正答率は、全国平均・京都府平均を上回っていました。特に、「情報と情報の関連付けの仕方や図などによる語句と語句の表し方を理解し使うことができる問題」においては、全国平均より9.8ポイント、京都府平均より8.2ポイント正答率が上回っていました。ペアやグループでの話し合いにおいて、自分の考えを明確にして相手に伝えるとともに、相手の意見を受け入れながら、自分の考えを深めていく学習活動の結果ではないかと考えられます。また、「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを問う問題」においても、全国平均・京都府平均を上回っていました。GIGA 端末も効果的に活用しながら、必要な情報を収集しまとめていく活動を取り入れている結果と考えられます。

一方で、「事実と感想、言葉との関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題」では、全国平均・京都府平均を下回っていました。読書量を増やすことで読解力をつけ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するための時間を多く設定していくことが必要であると考えます。

算数科より

算数科における全体の平均正答率は、全国平均を下回り、特に、「測定」「変化と関係」の領域では、他に比べて全国平均を下回る結果となりました。

算数科においては、自分の考えの根拠となる条件を見つけ、問題を解いていく力が求められます。現在も授業で行っている「自分の考えたことを相手にしっかりと伝える活動」や「自分自身に問い返すことのできる機会」を増やしていく必要があると考えます。また、「二つの数量関係に着目し、式や言葉を用いて記述する問題」においては、必要でない条件を選択したり、記述において条件が足りなかったりするなど、正答率が低い結果となりました。条件整理における根拠となる必要な情報をしっかりと捉え、整理していくことのできる経験を増やしていく必要があると考えられます。

さらに、全体を通して記述式の正答率が低く、必要に応じた適切な資料を選択・活用し、その理由を言葉や数、求め方の式などを用いて記述していくことのできる力を付けていく必要があると考えます。算数科においては、低学年からの積み上げがとても重要となるため、苦手としている課題を丁寧に取り組み、苦手意識をなくしていきたいと考えます。また、授業においては、知識・技能を身に付けるとともに、思考・判断・表現の力をさらに伸ばしていくことが必要であると考えます。

理科より

理科における全体の平均正答率は、全国平均は上回ったが、京都府平均は下回る結果となりました。その中で、「『地球』を柱とする領域」では、全国平均・京都府平均を上回りました。

実験の条件整理について、一方の実験条件からもう一方の実験についての実験条件を考え数値で答える問題では、高い正答率でした。しかし、実験結果を基に結論を導いた理由を記述する問題や発芽の条件において、差異点や共通点を基に新たな問題を見い出し記述する問題においては無回答率が高い傾向にありました。

毎回の学習の中で思考・判断する力を伸ばすために、実験結果を受けた考察をしっかり考え話し合う時間をとるとともに、児童一人一人が分かったことをまとめていくことのできる力を付けていく必要があると考えます。導入の工夫や学習問題の設定、根拠をもって予想を立てたり、結果を基にめあてに対してどんなことが分かったか考察をまとめたりする活動を児童が主体的に進めていくことができるよう授業開発を工夫していきます。

児童質問紙より①

Q．友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国	49.9%	42.0%	6.4%	1.5%
本校	74.6%	22.0%	1.7%	1.7%

「当てはまる」と回答した児童が、全国平均よりも約25%上回っており、自信をもって友達との関わりに良好な意識をもっていることが分かります。協働的な学びを大切にして、日々の学習に取り組んでいると考えます。

児童質問紙より②

Q．将来の夢や目標を持っていますか

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国	60.7%	22.4%	10.3%	6.6%
本校	66.1%	20.3%	10.2%	3.4%

全国平均よりも「当てはまる」の割合が高く、将来に向けてのイメージをもち、前向きにがんばろうとしている姿勢が見られます。これまでの学習をはじめ、いろいろな経験や人との関わりが要因であると考えられます。

児童質問紙より③

Q．自分によいところがあると思いますか

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国	50.8%	27.1%	18.6%	3.4%
本校	47.3%	39.6%	9.1%	3.9%

肯定的な回答が、全国平均よりも約9%上回っていました。自己肯定感が高い傾向にあり、「将来の夢をもつ」ことにもつながっていると考えます。自分のよさを素直に認められるように、日々励ましの声をかけていきたいと考えています。

児童質問紙より④

Q．自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
全国	32.6%	45.5%	17.1%	4.7%
本校	33.9%	50.8%	13.6%	1.7%

肯定的な回答が、全国平均よりも約6%上回っており、異なる意見に対して関心を持ち、考えることを楽しんでいると考えられます。お互いの違う考えを認め合い、自分の考えを更新できるような話し合い活動を大切にしていきます。

児童質問紙より⑤

Q．自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

	発表していた	どちらかといえば発表していた	どちらかといえば発表していなかった	発表していなかった	考えを発表する機会はなかった
全国	26.8%	41.8%	22.7%	7.0%	1.6%
本校	25.4%	22.0%	33.9%	15.3%	3.4%

肯定的な回答が、全国平均より約21%下回っていました。少人数での発表では活発に意見を交流する反面、全体での発表の仕方に課題が見られました。

これからに向けて

国語・理科の正答率は、全国平均よりも上回りましたが、算数科は全国平均を下回りました。その学年での学習の理解度だけでなく、全学年を系統的に考え、次の学年までにここまではきっちりおさえておかなければならないところを確実に把握し、次の学年に進めることができるように、教職員同士の連携を深め、授業開発や研鑽を深めていきたいと考えます。また、児童質問紙の結果から、学習内容の基礎基本の定着はもちろん、人との関わりを意識し大切にする取組などを通して、様々な教育活動の中で子どもたちの自己肯定感や自己有用感を高めていき、これからの社会を生きるための子どもたちの資質・能力を育んでいきたいと思います。

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、力をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものであり、日々の積み重ねで学力は定着していきます。今後も学校教育目標実現のために、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。